

グリニチ正午		太陽の 黄 經 (°)	分 8.308 × R		グリニチ 正 午	太陽の 黄 經 (°)	分 8.308 × R	
平 年	閏年		真 数	對 数			真 数	對 数
1月 0日	1日	279.26	8.170	0.9122	7月 9日	106.45	8.447	0.9267
10	11	289.46	8.171	.9123	19	115.99	8.443	.9265
20	21	299.64	8.175	.9125	29	125.54	8.435	.9261
30	31	309.81	8.185	.9130	8月 8日	135.11	8.424	.9255
2月 9日	10日	319.94	8.198	.9137	18	144.72	8.408	.9247
19	20	330.05	8.215	0.9146	28	154.36	8.391	0.9238
3月 1日	1日	340.10	8.234	.9156	9月 7日	164.04	8.371	.9228
11	11	350.11	8.257	.9168	17	173.78	8.348	.9216
21	21	0.06	8.279	.9180	27	183.56	8.325	.9204
31	31	9.96	8.302	.9192	10月 7日	193.41	8.302	.9192
4月 10日	10日	19.80	8.325	0.9204	17	203.31	8.277	0.9179
20	20	29.59	8.348	.9216	27	213.26	8.255	.9167
30	30	39.32	8.371	.9228	11月 6日	223.27	8.234	.9156
5月 10日	10日	49.01	8.391	.9238	16	233.33	8.215	.9146
20	20	58.65	8.408	.9247	26	243.43	8.198	9.137
30	30	68.25	8.424	0.9255	12月 6日	253.57	8.185	0.9130
6月 9日	9日	77.82	8.435	.9261	16	263.74	8.175	.9125
19	19	87.38	8.443	.9265	26	273.92	8.171	.9123
29	29	96.91	8.447	.9267	12月 15日	284.11	8.170	.9122
7月 9日	9日	106.45	8.447	.9267				

尤も、星の位置は大抵赤經 α と赤緯 δ とで與へられてゐますから、その黄經 λ と黄緯 β とを知るためには、又、特に下の如き式で計算する必要があります：
まづ

$$\tan M = \frac{\sin M}{\cos M} = \frac{\sin \delta}{\cos \delta \cdot \sin \alpha} = \frac{\tan \delta}{\sin \alpha} \quad \dots\dots\dots(2)$$

によつて、M を求め、次に、

$$\tan \lambda = \frac{\cos (M - \epsilon)}{\cos M} \times \tan \alpha \quad \dots\dots\dots(3)$$

$$\tan \beta = \tan (M - \epsilon) \cdot \sin \lambda \quad \dots\dots\dots(4)$$

そして、檢算のためには下記の式を用ゐます：

$$\frac{\cos (M - \epsilon)}{\cos M} = \frac{\cos \beta \sin \lambda}{\cos \delta \sin \alpha} \quad \dots\dots\dots(5)$$

皆、之れ等の式は、對數計算に便利に出來てゐます。しかし、計算尺の精密さでも良いわけです。(L. M. N.)

本會神戸支部 來2月23日(金曜)18時、元町四丁目三菱樓上で例會を開く。
山本會長の“太陽系の構造”に関する講話あり、折から白羊宮に集りつゝある
五大遊星を一同楽しむ筈。

 各地よりのたより

紀伊支部十二月例会

◎本會昭和十四年十二月例会は、十二月16日、豫定の通り名草小學校（海草郡紀三井寺町）に於いて午後6時より島田晋村氏司會の下に開催。協會側より阪田、野村、山本（靜）3名、高商側としては、山本君以外に、新谷雅信君出席。それに和歌山「星の會」會員4名、名草校教員約10名、その他生徒（高等科）を合して約50名參集し、小生望遠鏡に關して約1時間坐談的にしやべり、8時過ぎより空も漸く晴れたので、遊星（土、火、木、月等）及び二重星、星霧等の二三を觀望、ついで9時より10時迄再び職員室にて茶をのみつつ、スト1ブを圍んで雜談にふけり、22時過散會した。尙、當日、小槇支部長は、學校の方に展覽會ありしたため、惜くも不參であつた。

◎一月例会は、尙話は具體化してゐないが、中旬阪田晃氏司會の下に、那智郡粉河町にて開催の筈。（日は未定）

◎一月2日、一年ぶりに小槇支部長を金屋に訪れ、紀伊支部の將來に關して、種々企圖を懇談す。（一月8日 野村記）

 編輯後記

わが日本のみならず、實に全世界の非常時局で、戰亂のため、學術界や一般知識階級、インテリ層などは、何所も不振を極め、學會なども、取り止めや中止があり、恐慌を來してゐる。英國の有名な學術雜誌 Science Progress も、遂に、編輯不能となつて、去る10月號で廢刊してつた。こうした渦巻きの中にあつて、本會は相變らず重要な會員が應召したりして、緊張してゐる中に、しかし、案外な方面から入會者があり、又、觀測部員も増して行く。景氣の好い話である。

今の第20巻の初め(11月號)から活字の組み方を大改良して、紙數是不變であるが、内容は正味2割強も増したことになり、今までの50ペ1ジに相當するものとなつた。しかし、一方に於いて、諸方面から興味ある原稿が澤山集まつて來るので、やはり、とても之れだけでは頁數が未だ未だ足りない。編輯部の年來の希望であるが、是非、100ペ1ジの天文雜誌にしたい。

諸方から投稿される原稿の中に、普通のたて組みの原稿用紙を使用してゐられる人が多いので、閉口する。言ふまでもなく、本誌は横組み印刷なので、原稿も亦、是非に横書きと願ひたい。標準は一ペ1ジが35字詰めの、35行です。